

業界トピックス

2010年4月の動き

ロシアビジネス

横浜ゴムのロシア新タイヤ工場起工式
三菱自、プジョーのロシア工場竣工式
大気社がロシア現法を設立
三菱ふそう、ロシアで小型トラック販売
JOGMECがサハリン1の債務保証
千代田化工がサハリンで設計業務サービス
双日がロシアでコジェネ化プロジェクト
丸紅、ロシアから小麦輸入
日立AP、ロシアで家庭エアコン事業強化
NCANが遊休機をロシア社へリース

NISビジネス

センコー、カザフ国家プロジェクトに参画
JBICとウズベク銀の業務協力覚書
JOGMEC、鉱物・エネルギーでウズベクと覚書

ロシアNIS貿易会の活動

トルクメン繊維ミッション受入
ロシア極東建材商談会
ウズベク・コンフェレンス開催

今月のピックアップ

中央アジアの人材に注目するペリーレッド

ロシアビジネス

横浜ゴムのロシア新タイヤ工場起工式

横浜ゴム株式会社は4月5日、ロシアのタイヤ生産販売会社ヨコハマR.P.Z.（社長：沖島潤一）が3月23日にリペツク州リペツク特別経済区（SEZ）で新タイヤ工場の起工式を開催したことを正式に発表した。起工式にはリペツク州知事、ロシア連邦・州政府及びSEZ関係者、日本大使館公使、鈴木伸一・横浜ゴム常務執行役員など総勢50名が出席し、多数の地元報道陣が取材に訪れた。挨拶に立った鈴木常務執行役員は「横浜ゴムは伊藤忠商事と合弁で2005年にモスクワ州にタイヤ販売会社ヨコハマロシアを設立、以来毎年順調に販売を伸ばし、ロシアは横浜ゴムにとって重要な市場に成長した。新タイヤ工場の建設は、ロシア全土に最高品質のタイヤをいち早く届けることが目的で、環境や省エネルギーに十二分に配慮した最新鋭工場を計画している」と述べた。ヨコハマR.P.Z.は2008年12月に設立。現在の資本金は18.4億ルーブル（約57億円）で、横浜ゴム80%、伊藤忠商事20%の出資比率となっている。24haの敷地に48億ルーブル（約148億円）を投じて4万3,000㎡の乗用車タイヤ工場を建設し、2011年中に年間生産能力140万本で操業開始する予定である。

三菱自、プジョーのロシア工場竣工式

三菱自動車工業株式会社は4月23日、カルーガ州において、PSAプジョー・シトロエン社との合弁による乗用車組立工場の竣工式を行った。式典にはポルタフチェンコ中央連邦管区大統領全権代表、アルタモノフ・カルーガ州知事、

ならびに関係各社代表が出席した。新工場は建設は2008年に開始、初期投資額は4億7,000万ユーロ。生産能力は、三菱自、プジョー、シトロエンの3ブランドで年間12万5,000台。このうちプジョーおよびシトロエン・ブランドの中型乗用車8万5,000台、中型スポーツタイプ多目的車（SUV）は4万台で、後者は三菱「アウトランダー」、「プジョー4007」、「シトロエンCクロスサー」を生産する。従業員数は約3,000名。西岡喬・三菱自動車会長（ロシアNIS貿易会会長）は記者会見で「ロシアは当社が将来継続的に成長するための鍵を握る極めて重要な市場と考えている」と述べた。

大気社がロシア現法を設立

空調設備大手の株式会社大気社は4月14日、PSAプジョー・シトロエンと三菱自動車の合弁会社LLC「PCMA Rus」からロシアでの新塗装設備工事を受注し、その対応拠点としてカルーガ市に現地法人「Taikisha (R) Limited Liability Company」（Taikisha (R)）を設立したことを発表した。今回受注したプロジェクトは、「PCMA Rus」がカルーガ州に建設する塗装設備工場のSUV（スポーツ・ユーティリティ・ビークル）や乗用車の新塗装ライン。現地法人の概要は以下の通り。

- 法人名：“Taikisha (R)” Limited Liability Company
- 所在地：36a, Promyshlennaya street, Kaluga-city, Kaluzhskaya district
Russian Federation, 248025
- 設立年月：2009年12月23日
- 資本金：1,650万ルーブル
- 出資構成：大気社100%出資
- 事業内容：塗装プラント、環境保全設備、空調・衛生設備などの設計・施工・据付・試運転調整ならび、それに付随する建築・土木工事
- 代表者名：颯波 淳三（サツパ ジュンゾウ）

三菱ふそう、ロシアで小型トラック販売

三菱ふそうトラック・バス株式会社（MFTBC）は4月19日、モスクワで開催されるロシア商用車モーターショー「COMTRANS 2010」（4月20日～）に現地仕様の小型トラック「キャンター」を初出展するとともに、6月より販売を開始することを発表した。MFTBCは2009年9月にロシア商用車最大手のカマズ社との合弁会社「ふそうカマズ・トラックロシア社（FUSO KAMAZ Trucks Rus = FKTR）」を設立。タタールスタン共和国のナベレジヌイエ・チェルヌイの工場に、小型トラック「キャンター」の生産を開始した。FKTR社は2010年末までに、モスクワ、サンクトペテルブルク、カザンなど主要都市を中心に約30拠点の販売網を整備。販売店はカマズおよびメルセデスベンツトラックの直営販

売店、独立系販売店にて構成される。また、高品質のサービスと技術サポートを提供するために、現地ディーラーの整備士および営業担当者の教育用のトレーニングセンターをカザンに設立するとしている。

JOGMECがサハリン1の債務保証

石油天然ガス・金属鉱物資源機構（JOGMEC）は4月7日、サハリン石油ガス開発株式会社（SODECO）が推進するサハリン1プロジェクトにおけるオドプトFSP（First Stage Production）開発事業について、債務保証案件として採択し、債務保証関連契約を締結した。見込額は3億6,000万ドル（外部借入予定額の7億2,000万ドルの半分）。同案件は、サハリン1で先行開発されたチャイヴォ構造の北方に位置するオドプト構造の第一段階の開発で、2010年後半に生産開始が見込まれている。SODECOはサハリン1プロジェクトに30%の権益を有している。

千代田化工がサハリンで設計業務サービス

千代田化工建設株式会社は4月22日、サハリン・エナジー・インベストメント社との間で、サハリンにて既設の天然ガス液化（LNG）プラントおよびLNG／石油出荷ターミナルに関わる設計業務サービス契約を締結したことを発表した。締結日は3月30日、契約期間は2012年末まで。

双日がロシアでコージェネ化プロジェクト

双日株式会社は4月26日、ロシアの政府系企業である極東燃料・エネルギーコンプレックス発展戦略研究センター（本社：ウラジオストク市）との間で、ロシア極東地域におけるコージェネレーション（熱電併給）化プロジェクトに関して、川崎重工業株式会社製のガスタービンおよび付帯設備を納入することに合意し、覚書に調印した。ロシア極東地域のコージェネレーション化プロジェクトは、ロシア政府が推進しているエネルギー効率改善と環境対策の一環。2012年に開通が予定されているサハリンからハバロフスクを經由してウラジオストクまでを結ぶ全長約1,800kmのパイプライン沿いの市町村に、高効率のコージェネレーションシステムを導入する。第1期の計画として、2015年までに30基のガスタービンおよび付帯設備を納入する予定で、受注金額は約200億円になる見込み。パイロットプラントとして、2010年8月に1.5MW、3MW、7MWの設備を1基ずつ契約し、2011年末に稼働させる計画である。

丸紅、ロシアから小麦輸入

丸紅株式会社4月26日、ロシア東部の有力穀物集荷業者であるアムールゼルノ社、および港湾物流業者のフェテクシム社と、穀物取扱いに関する包括提携

合意書を締結し、ロシア東岸からの穀物輸出拡大を目指し、協力関係を構築することで合意したと発表した。東アジアの穀物需要の拡大に伴い、ロシアにおける穀物生産およびロシア東岸からの穀物輸出の重要性が高まるなか、丸紅はロシア東部を穀物の産地として、今後の発展が大きく期待できる重要地域の一つと位置付けている。2009年度、丸紅はロシア東岸から過去最大規模となる5万tの日本向け穀物輸出契約を成約。そのパートナーであるアムールゼルノ社と今回、独占契約を締結し、さらに取組を強化することで安定的に穀物を調達、またフェテクシム社との取組により物流を効率化し、競争力のある穀物の供給を行っていくという。

日立AP、ロシアで家庭エアコン事業強化

『日経産業新聞』（2010.4.14）は、日立アプライアンス株式会社（日立AP）がロシアでの家庭用エアコン事業を強化していると報じた。日立APはロシアに吸排気機能付きエアコンの高位機種となる2機種を順次投入。販売する機種は合計23種となり、高機能製品が約半数を占めたという。同社は世界同時不況の影響で縮小したロシア市場が回復に向かいつつあるとみており、富裕層向けに売り込む考えである。

NCANが遊休機をロシア社へリース

『日経産業新聞』（2010.4.26）は、日本郵船子会社の日本貨物航空（NCAN）が保有機材1機をロシアの航空貨物会社にリースすることを決めたと報じた。契約期間は2年間。リース契約を結んだのはロシアのエア・ブリッジ・カーゴ社（ABC社）。機材はボーイングの「747-400F」。

NISビジネス

センコー、カザフ国家プロジェクトに参画

総合物流のセンコー株式会社は4月26日、カザフ現地企業であるランカスターインフラストラクチャー社（ランカスター社）と合弁会社「Senk-Lancaster Silk Road Logistics LLP」を設立することに合意し、調印を行なったことを発表した。カザフスタンと中国の国境沿いにあるホルゴスに設立される両国の戦略的共同国家プロジェクト「International Center for Border Cooperation」（国際国境経済開発センター＝ICBCホルゴス）に参画し、物流センターの建設・運営を実施する。センコーとランカスター社の出資比率は各50%。ICBCホルゴスを5月に設立し、中国・カザフ国境のホルゴス地区に確保した約8ヘクタールの敷地内に1棟の物流センターを建設する。合弁企業の概要は以下のとおり。

- 会社名：Senk-Lancaster Silk Road Logistics LLP
(センコー・ランカスター シルクロードロジスティクス有限会社)
- 本社所在地：カザフスタン共和国アルマティ市
- 資本金：240万ドル（うちセンコー出資120万ドル）
- 事業範囲：トラック積卸業、倉庫業、通関業、および左記に付随するすべての業務
- 開業：2011年1月（予定）

JBICとウズベク銀の業務協力覚書

国際協力銀行（JBIC）は4月23日、ウズベキスタン政府100%出資のウズベキスタン対外経済活動銀行（NBU）との間で業務協力を目的とする覚書を締結したことを発表した。同覚書は、JBICとNBUが日本企業によるウズベキスタン向け輸出・直接投資案件の促進に向けた協力可能性を検討していくことを目的としている。具体的には、現在、ウズベキスタン政府が開発を進めている同国初の経済特区である「ナヴォイ自由産業経済特区」を含め、同国における日本企業が関与するプロジェクトについて、JBICとNBUとの間の情報・意見交換を緊密化し、これらプロジェクトに対する融資の可能性を検討する。

JOGMEC、鉱物・エネルギーでウズベクと覚書

石油天然ガス・金属鉱物資源機構（JOGMEC）は4月23日、ウズベキスタンの関係機関と「ウズベキスタンにおけるレアメタルに係る共同探査」「ウズベキスタンにおける石油製品及び天然ガスのマーケティングに関する調査」の2つの覚書に調印したことを発表した。ガニエフ・ウズベク副首相兼対外経済・投資・貿易大臣が来日したのを機に開催された国際コンフェレンス「日本のパートナーのためのウズベキスタンへの新たな投資チャンス」の場で、ウズベク地質鉱物資源国家委員会のトゥラムラトフ議長代行、国営石油会社「ウズベキネフテガス」のアフメドフ副総裁とJOGMECとの間で締結された。

ロシアNIS貿易会の活動

トルクメン繊維ミッション受入

当会が事務局を務める日本トルクメニスタン経済委員会は、トルクメニスタン政府からの要請を受け、4月13～17日の間、トルクメンカーペット公社傘下「アルガチ」ウール紡績工場長のジャマレトディノフ氏および「バハल्ली絨毯工場」工場長のチャーリーエフ氏の訪日を受け入れた。これは2009年12月に東京で開催された第8回日本トルクメニスタン合同会議において、トルクメニス

タンからの対日輸入促進の協力についての合意を踏まえ、同国製絨毯の対日輸出、販売の可能性を検討するためのもの。両氏は滞在中、日本繊維輸入組合やJETROを訪問して、日本における絨毯の市場動向、輸入促進事業等について説明を受けるとともに、絨毯輸入販売会社Amir Oriental Carpets、TRCなどとビジネス・マッチングを行った他、大塚家具やペルシャ絨毯ショップ等を見学した。

ロシア極東建材商談会

平成22年度国庫補助事業ビジネスマッチング・コンサルティング事業として、当会の原真澄・業務部次長は4月15～25日、北海道の建材商社3社、東京の建材商社2社の担当者ならびにロシア貿易に精通したコンサルタント2名とともにサハリン州ユジノサハリンスク市、沿海地方ウラジオストク市を訪問した。ウラジオストク市では21日～22日に開催された第17回建材展示会「GOROD」に建材メーカーおよび商社、計4社が住宅用外壁材、屋根材を出展。来場したロシアの建材商社、施工業者と商談を行なった。ユジノサハリンスク市、ウラジオストク市では住宅建設が進んでおり、特に屋根材や外壁材の市場は、日本企業のみならず、ヨーロッパ企業、中国、韓国企業の関心が高い。建材展示会「GOROD」には、多くのロシア企業、外国企業および外国企業の代理店など、100社以上が出展し盛況であった。



建材展示会の全景



日本企業のブース

ウズベク・コンフェレンス開催

4月22日、ウズベキスタンよりガニエフ副首相兼対外経済・投資・貿易大臣他、政府高官の来日を機に、東京のホテル・ニューオータニにおいて、国際コンフェレンス「日本のパートナーのためのウズベキスタンへの新たな投資チャンス」が開催された（主催：ウズベキスタン共和国政府、駐日ウズベキスタン共和国大使館、後援：経済産業省、ロシアNIS貿易会）。午前中の本会議では、松下忠洋・経済産業副大臣ならびにガニエフ副首相の挨拶の後、ウズベキスタ

ン初の本格的経済特区であるナヴォイ経済特区の概要、ウズベキスタン経済の現状、日本との有望協力分野、ウズベクにおける日本企業の活動等に関するプレゼンテーションが行なわれた。その後、両国関係機関の間で16の文書が調印され（その他の機会に調印された文書は3つ）、午後にはテーマ別に4つの分科会が行なわれた。当日は約400名の参加者があり、ウズベク政府およびビジネス関係者との情報交換、人脈形成などの場として活用された。各報告の資料、調印された文書の一覧は当会HPを参照いただきたい。

(<http://www.jp-ca.org/navoiforum/materials.html>)

今月のピックアップ

中央アジアの人材に注目するペリーレッド

近年、日本への留学生や海外の大学を卒業した外国人を本社スタッフとして採用する日本企業が増えている。コンサルティング・IT経営サポートを行うペリーレッド株式会社もそのひとつ。少子高齢化で国内市場が急速に縮むなか、海外ビジネスを広げるためのグローバル採用先として、ウズベキスタンやキルギスといった中央アジア諸国に注目している。なぜ中央アジアなのか。同社の山崎健一・代表取締役にお話を伺った。

* * * * *

「食品会社を経営している知人がウズベキスタンからドライフルーツの輸入を検討していたのですが、彼のウズベクの友人の娘さんは日本語がぺらぺらなので、当社で雇ってくれないかと。それじゃあ面接方々、ウズベキスタンへ行ってみようということになったんです」

山崎氏は中央アジアと関わるようになったきっかけをこう語る。向かった先は首都タシケントから東へ飛行機で1時間ほどのリシタン。2006年のことだった。最終的に採用には至らなかったが、その後、ウズベキスタンへ訪問する機会が増えた。

「(中央アジアの第一印象は)真面目で実直。また顔立ちも日本人に近いので、親しみがもてました。また、若い人が多いので、当社のIT事業の担当者として採用できないかなと思ったのです」

山崎氏は、CD・DVDのコンテンツ制作からプレス・パッケージングまでを行うコスモテック株式会社の代表取締役でもある。ペリーレッドは同社の100%子会社だ。山崎氏は国際協力機構（JICA）や日本貿易振興機構（JETRO）のウズベキスタン駐在員事務所を通してウズベキスタンの大学生を紹介してもらい、ペリーレッドの取締役である七字里実氏とともに現地で面接や適性検査などを行った。

「その後も筑波大学地域研究科に留学している中央アジアの学生との交流会を開いたり、ウズベキスタンの青年を日本に招聘して3カ月間の研修を行ったりしました。ただ、実際に日本で仕事をしてもらうとなると難しく、現在、当社では在日キルギス大使館から紹介していただいたビシュケク出身の神田ナズグーリさんに働いてもらっています」

ペリーレッドは当初、中央アジアからシルクロードの特産品を日本にもってこることや、金融工学システムや荷物の動きを追跡する流通システムをキルギスに導入することなどを検討していた。しかし、たとえばキルギスの工芸品が素晴らしいとはいえ、全てがハンドメイドになる為、短時間での大ロットの輸入は厳しく小ロットの輸入に限られるし、金融工学や流通のシステムを導入するまでに相手国の企業は発展していない。そこで注目したのが人材だった。

2009年2月にビシュケクで開催され、ペリーレッドも参加した日本キルギスビジネスフォーラムでは、キルギス政府がIT協会を設立したことを紹介していた。実際のキルギスのIT従事者の習熟度はどうなのだろうか。

「キルギスおよびウズベキスタンのIT教育のレベルは日本より多少遅れておりますがでも、能力のある人はたくさんいます」

中央アジアは旧ソ連共和国であり、IT関係は遅れているのではないかという山崎氏のイメージは覆されたという。

「日本はおそらく人口が減少していくでしょう。一方、中央アジアは若い世代が多い。彼らをどう取り込んでいくか。石油やガス、非鉄金属やウランなど鉱物資源も確かに魅力がありますが、内陸国ですから、それらを運ぶには中国など第三国を経由しなければなりません。せっかく当該国で開発に成功したとしても、隣国との関係が悪化したら物流が止まってしまう。その点、人材は飛行機に乗れば大丈夫。相手国との関係をよくしていくには、まず人材交流からではないかと思えます」

日本と中央アジアとのビジネスがヒトの交流をきっかけに拡大していく。そんな期待を抱かせてくれる山崎氏のお話であった。



左より
神田ナズグーリさん、
山崎健一さん、
七字里実さん。

(構成：芳地 隆之)